



校長室の窓から

校長 飯塚博文

※「校長室から」感じたこと等を不定期で発信していきます。

264 3月10日（月）

「令和7年度の行事及び日課について」スクリレにて配信しました。特に、5月に実施してきた運動会の時期の変更については、慎重に検討してまいりました。過去5年間の運動会実施週の平均気温、練習期間中や当日の児童の熱中症罹患や保護者を含めた熱中症による救急搬送の状況、各学年の児童の実態他など複数の状況を鑑みて、実施時期の変更に至りました。持久走大会についても、これまで実施してきた成果を踏まえつつ、代替実施時期、持続的な運動を行う留意点、コロナ禍5年間の影響、児童の心身の状況、過去に起こった事故等を総合的に考えて判断しました。

263 3月7日（金）

サルを目撃情報が市教委より提供されました。目撃場所が、鎌ヶ谷カントリークラブ付近、鎌ヶ谷市役所近隣飲食店付近ということでした。学区内であり、児童への注意喚起、保護者への情報提供、下校時に職員によるパトロールを行います。また、野外での活動についても十分に注意し対応するよう、注意喚起を行います。

262 3月6日（木）

本日付、千葉日報の1面に「依然深刻、長時間労働も」の見出しが躍りました。千葉県政の課題の一つである「教員不足」について。「ブラック労働」といわれる教員の担い手不足が深刻化する中、人材確保や負担軽減が課題となっています。「夢を持って教員になったのに、多すぎる仕事に忙殺され、辞めるといふ悪循環に陥っている」と記事が続きます。本校でも、「授業など子どもに向き合う時間の確保」のため、できることを模索していきます。健康な教員によって、健やかな子どもを育むために。

261 3月5日(水)

朝、安全指導を行っている時、登校中の児童から「校長先生、この寒さ、なんとかしてください。寒すぎます！」とお願いされました。心配された雪の影響はなかったものの冷たい風が身にしみる朝でした。今日は、土の中で縮こまっていた虫(蟄)が穴を開いて(啓いて)動き出す日「啓蟄」ですが、近くまで来ていた春は一旦立ち止まっているようです。

260 3月4日(火)

本日、朝刊「千葉日報」に本校の研究内容が紹介されました。本年度から2カ年計画で、「NIE(教育に新聞を(Newspaper in Education))」の頭文字をとった呼び名)教育の研究に取り組んでいます。NIE報告～県内実践校の取組として、掲載されました。本年度は「テーマを決めて、新聞に慣れ親しむ」ことをゴールに設定し、各学年で実践しています。こうして新聞に取り上げられることに、子どもたちと一緒に喜ぶとともに、感謝します。

259 3月3日(月)

3月3日のひな祭りは、女の子の幸せと健やかな成長を願ってお祝いする日です。雛人形は、昔の人形(ひとがた)や流し雛の風習の通り、お雛様に女の子の穢れを移して厄災を身代わりに引き受けてもらうためだとも言われています。そんな子どもに災いが降りかからないようにという家族の願いや、人生の幸福が得られるようにという気持ちを込めて、雛人形を飾るようになりました。今宵は、ひなあられ、ひし餅をそろえ、顔を赤く染めた右大臣のごとく、お祝いを。ちらし寿司に、はまぐりのお吸い物も忘れずに。

258 3月2日(日)

東京マラソンが行われました。日頃、走る事ができない東京の各景勝地をめぐるコースは、市民ランナーにとっても憧れの大会です。今年も沿道には多くの方々が駆けつけました。途切れることのない応援もまた、本大会の魅力です。まさに、東京が1つになる日。ランナーとしても、応援者としても、魅力のある1日です。ゴールした瞬間の感激は、順位よりも、記録をも超える、何よりも代えがたい「人生の宝物」として、いつまでも残ります。

3月1日（土）

いよいよ3月に入りました。「ありがとうの会」の心地よい余韻が残る中、年度末に向けてのラストスパートの時期となります。締めくくりの時期であると同時に、進級、進学に向けての助走期間でもあります。この1年間の成就感、達成感を大切にしながら、新年度への期待を膨らませられるよう、この1ヶ月、有意義に過ごしていきたいものです。